

経営比較分析表（令和6年度決算）

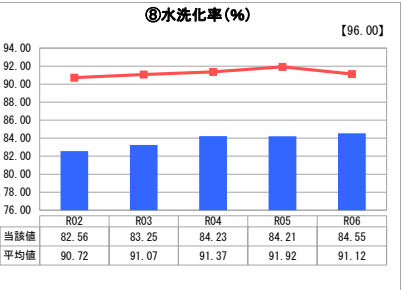
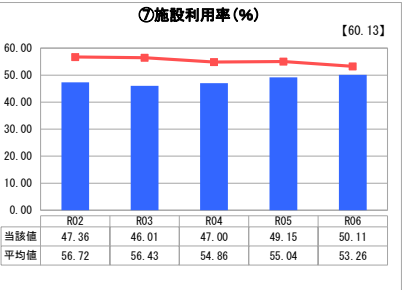
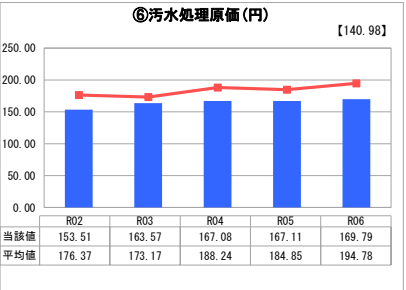
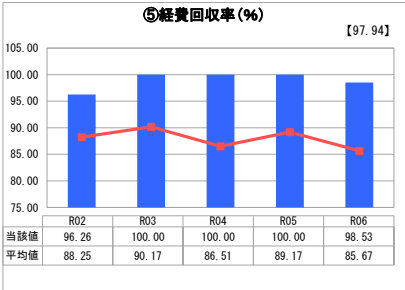
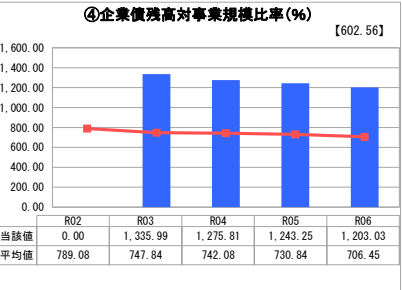
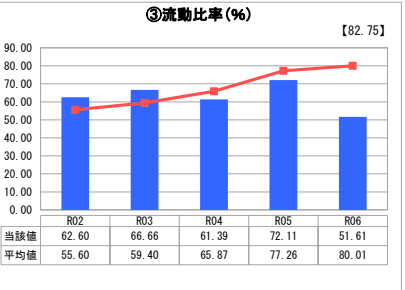
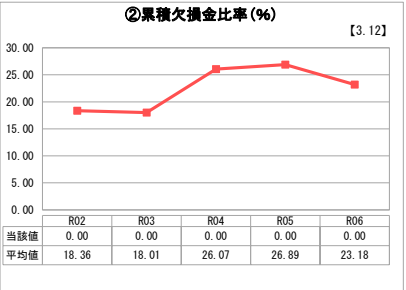
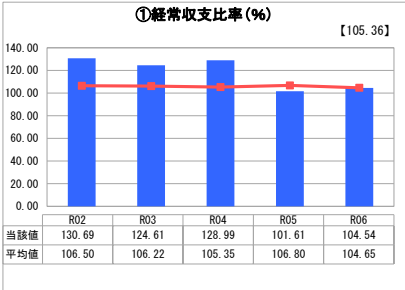
栃木県 矢板市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	63.88	39.69	62.85	3,300

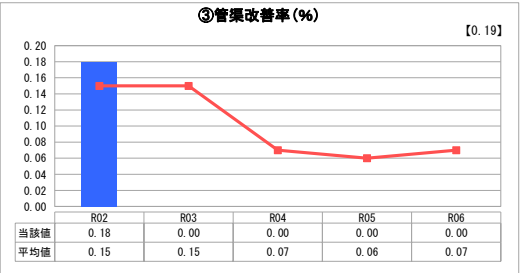
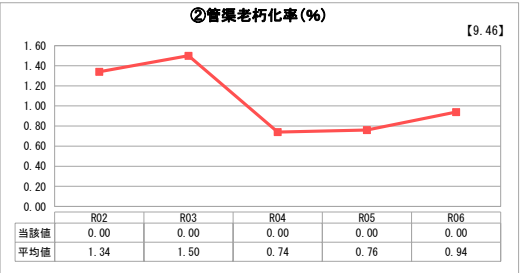
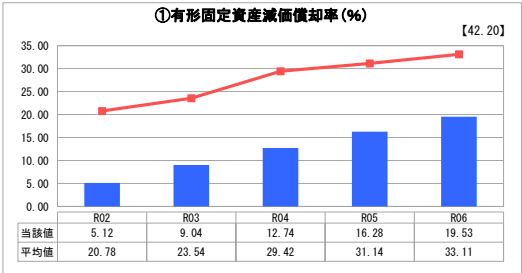
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,117	170.46	176.68
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
11,857	4.93	2,405.07

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を上回っていますが、経費の一部を一般会計からの繰入金で補填している状況です。今後は人口減少による減収も見込まれることから、経費削減、財源確保に努め、経営の健全化を図る必要があります。

②累積欠損金は発生していません。

③流動比率は前年度より減少し、類似団体平均を大きく下回っています。今後も企業債の縮減に努めます。

④企業債残高対事業規模比率は、若干減少しているものの、類似団体平均を上回っています。今後は施設の改築需要の増大が見込まれることから、計画的な投資を行うとともに、財源確保を図っていく必要があります。

⑤経費回収率は100%を下回り、汚水処理費用は使用料で賄われず、繰入金を充てている状況です。今後は、適正な使用料収入の確保及び汚水処理費の削減を図っていく必要があります。

⑥汚水処理原価は、経済的・効率的に汚水処理施設の運転ができているため、類似団体平均値を下回る状況です。

⑦施設利用率は、未だ余裕がある状況ですが、コリーナ矢板排水処理区域との統合、処理区域内の管渠整備を進めているため、今後増加する予定です。

⑧水洗化率は、類似団体平均値を下回る状況です。今後も水洗化の促進に努めていきます。

2. 老朽化の状況について

現在、法定耐用年数（50年）を超えた管渠はありませんが、施設点検や管渠カメラ調査等を実施し、適宜、修繕や清掃を進めています。

下水道ストックマネジメント計画に基づき、管渠、ポンプ場、水処理センターの長寿命化を推進します。

全体総括

人口減少に伴うサービス需要の減少、施設の老朽化に伴う更新需要の増大、物価高騰等による費用の増加などにより、今後厳しい経営状況が予想されます。

適正な施設管理と健全な経営のために、経営の効率化と料金改定を含む収入の適正化を図る必要があります。

持続可能な事業経営に向け、経営戦略に基づき、引き続き効率的な投資と財政基盤の強化に取り組んでいきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。